

## 戸塚区拠点（コミュニティカフェ等）活動効果検証事業報告書（要約版）

### 1. 本事業の目的と進め方

戸塚区深谷町に拠点（コミュニティ・カフェ）の「ふらっとステーション・ドリーム」が活動をはじめて8年目を迎えました。この拠点の活動の効果を検証し、戸塚区にとって、今後新たに取り組みられる地域拠点（コミュニティ・カフェ等）の活動を支援する意義、価値（継続的に資金的な支援を行う根拠）を明らかにしました。

本事業では、「ふらっとステーション・ドリーム」に関する情報を収集し整理を行い、「ふらっとステーション・ドリーム」に対する当事者からの評価を得るために、「ふらっとステーション・ドリーム」の利用者(56人)及び活動者(12人)にヒアリングを行いました。さらに当事者だけではなく「ふらっとステーション・ドリーム」に対する外部（地域）からの評価を得るために、自治会、他の活動団体、地域ケアプラザへのヒアリングを行い、当事者評価と外部評価の結果を踏まえて、地域における拠点の効果と必要性について分析・考察を行いました。

### 2. 調査の結果から見てきた「ふらっとステーション・ドリーム」の地域拠点としての効果（地域拠点としての存在意義）

#### 利用者にとっての地域拠点の効果

#### ①「食」と心地よい環境との組み合わせによる心身の安定をもたらす効果

「ふらっとステーション・ドリーム」のランチは、ほとんどの利用者が満足しており、リピーターが多いのが特徴です。「ふらっとステーション・ドリーム」の「食」は、ファミレスやコンビニ弁当とは異なる要素があり（量がちょうど良い、栄養バランスが良い、毎日変わるメニュー、季節感のある食材、プロっぽくない手作り料理）、それに加えて「仲間と食べることができる（知っている人がいる）」「ゆっくり食べることができる」「スタッフが明るい」といったボランティアスタッフの運営ならではの気持ちのこもった心地よい環境が整備されています。このような「食」＋「環境」との組み合わせにより、利用者の心身の安定が図られるという効果が生み出されています。

#### ②多様なステージを提供し、日常生活における「生きがい感」を高める効果

「ふらっとステーション・ドリーム」は「食の提供」に加え、「学ぶ（カルチャー教室）」、「遊ぶ（麻雀）」、「会合」、「文化（コンサート）」、「展示」、「ショップ」などの多様なステージを提供しています。従って、地域の様々な人が集まり、様々な人との出会いもあり、地域の情報も入ってきます。このような環境の中で、自分自身の新たな気づきがあったり、意欲がでてきたり、人生に対して前向きになり、「ふらっとステーション・ドリーム」に来ることが楽しみの1つになっています。「生きがいづくりの拠点」としての効果を見ることができます。

### ③信頼関係に基づく安心感を創り出す効果

「ふらっとステーション・ドリーム」にリピーターが多いのは、ここに来れば仲間と会っておしゃべりができる、新しい仲間ができる、といった信頼関係に基づく安心感が生まれているからです。また利用者の中には友人が来ると「ふらっとステーション・ドリーム」に連れてくるといった「自分の居場所」としてのなじみの関係ができています。近隣関係の希薄化が進んでいる今日、こうしたなじみの関係や安心感を創り出す効果は、新たな繋がりを創るという点で有意義で、災害時の対応にも効果的に働きます。これは地域の拠点の大きな要素とも言えます。

### ④顔なじみのスタッフなどが創る心が休まる効果

「ふらっとステーション・ドリーム」には、同年配の人がいる、顔見知りのスタッフがいる、といった日常性の環境（特別なところではない所）が形成されています。一方、ハイツ外の利用者にとっては、近所とは別の顔見知りの関係を新たに創り上げています。さらに絵画や写真を展示しているのも、やわらかな環境を創り出しており、このような人や物による心休まる空間を提供する効果も見られます。

### ⑤人々との交流・情報交換による生活の質を高める効果

「ふらっとステーション・ドリーム」はハイツの住民だけが利用しているのではなく、他の地域の人、ハイツ内で働いている人の利用も増えています。ハイツ外の利用者の多くは、「私の地域にもこのような地域拠点が必要」と感じており、料理の作り方などをスタッフから教わることもあります。「食の提供」に加えて、様々な情報を入手することができ、自ら情報を提供することもでき、地域拠点による生活の質（QOL）を高める効果を見ることができます。

## 活動者にとっての地域拠点の効果

### ①日常生活における「楽しみ」を創る効果

活動者全員が口にしていることは「楽しい」です。「ふらっとステーション・ドリーム」に来ることで、仲間や利用者との交流が深まり、楽しい生活を創ることができる効果がみられます。

### ②パーソナルネットワークを広げ・充実させる効果

活動者は、一緒に毎日ランチをつくるという作業から、地域の中に何でも言い合える仲間がつくられ、人間関係が広がる効果がみられます。

### ③学びの場となる効果

調理スタッフは全員主婦なので、家庭料理のプロです。しかし「食事を作ることで新たに学ぶことがたくさんあり、新鮮である」「料理に対して工夫や挑戦をしてみようと思う」「レストランに行くと料理法や味付け、盛りつけなどを観察し、試すようになった」

「人前で話せなかったが、話せるようになった」といった学習効果があり、日々地域の  
人との交流ができることによるモチベーションアップが期待できます。

#### ④新たな気付き効果

学習効果に加え、「利用者においしいと言ってもらえるうれしさを実感した」「夫の協  
力が得られるようになった」など、新たな感動や家族関係の変化もあり、生活をより良  
く改善していく効果もみられます。

#### ⑤地域の顔（情報）が見える効果

活動を通して、地域の人々の安否確認できる、地域の動きが見えるという効果もありま  
す。地域の拠点を活用することで、見えにくくなった個人情報も別の形で見ることで  
きる効果もみられます。

### 地域の社会資源としての効果

#### ①地域住民が地域活動に参加する繋ぎ役効果

##### ●きっかけづくり効果

気兼ねなく地域活動に参加できる場を提供し、定年退職者が「地域人間」になるため  
の慣らし機能となっています。

##### ●地域の顔（情報）が見える効果

地域の人々の安否も確認でき、顔の見える関係を作りやすくしています。

##### ●地域情報(状況)を入手できる効果

地域で必要されることがキャッチしやすい。

#### ②地域住民の心を繋ぐ効果

##### ●地域へのアイデンティティ形成効果

地の利を活かした活動なので、自分たちの居場所、という意識が形成されます。

##### ●災害時の避難機能効果

毎日、開いていて、気軽に入れて、集える場があることが安心感に繋がり、その地  
域の中の防災拠点として地域住民の意識の中に認識されています。

##### ●なじみの関係による安心感提供効果

顔なじみの人がいるので、助けられることへの抵抗感が安心感になります。

#### ③地域住民の生活の幅を広げ質を深める効果

##### ●地域住民の生活の幅を広げる効果

様々な活動団体ができる場としての選択肢が増えたことは住民の生活の幅を広げて  
います。

##### ●地域住民の生活の質を深める効果

選択の機会が増えることは人々が繋がる機会が増え、生活の質の向上に繋がります。

小さな相談ごとにも、地域住民の生活の視点から話を聞いてもらえる場があることで、解決に繋がることもできます。

#### ④子ども達に未来を繋ぐ効果

##### ●子ども達に地域活動を体験させる場（学習効果）

・小さい時からの地域活動への体験、何かを感じることができる場を提供しています。

### 地域拠点の公共性

今回の調査を通じて、以下のような「ふらっとステーション・ドリーム（地域における拠点）」の公共的な働きが浮き彫りにされました。

#### ①福祉医療機能をさらに高める効果

食事の提出に加えて、仲間との会話、ゆっくり楽しいランチタイムを送れることで、さらなる健康効果が高くなっています。栄養面だけでなく精神的な面でも癒しの効果があり、安否確認にも繋がり健康維持、医療福祉機能をさらに高める効果があります。

#### ②災害時の防災拠点としての効果

日常的な物理的な安心の場が、災害時には心の安心安全の場となって機能しています。

#### ③区民のQOLを高める効果

地域拠点では、食事ができる、ここに来ることが楽しみ、仲間に出会える、情報が入るなど複数の機能を併せ持つことで、地域住民に対する生活の質（QOL）を高め、元気なまちづくりの担い手としてのエンパワメント効果も大きい。

#### ④生涯学習効果（学び合える効果）

地域拠点では、利用者にも活動者（担い手）にも、楽しみ、生きがいになっています。地域拠点での参加型・創造型の生涯学習を提供する機能にもなっています。

#### （地域拠点の要件）

他の地域でも地域拠点をあげるうえで、今回の検証事業から抽出された地域拠点立ち上げの要件を以下のように整理しました。

①まずは半径1キロ以内の人々との広域的な繋がりをつくること。

②周辺環境を見極めること。

③コンセプトが明確になっていること。

④多様なメニューを工夫すること。